

# 共立女子第二中学校

2020年度

## 入学試験問題（1回PM）

### 【 国 語 】

試験時間 50 分

### 【 注 意 】

- 1 試験開始の合図があるまで、中を見てはいけません。
- 2 問題は一～三で、全部で12ページです。試験中によごれや不足しているページに気づいた場合は、手をあげて監督の先生を呼んでください。
- 3 解答はすべて解答用紙にはっきりと記入し、解答用紙だけを提出してください。

一、次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。(本文には一部改めたところがあります)

先入観は先読みする能力の裏返しであると考えられる。文字認識の例として、図1をできるだけ短い時間で見ていただきたい。

「THE CAT」と読めたことと思う。英語は苦手だからといって、「TAE CHT」と読んだ人はまずいないだろう。文字だけの情報からは、<sup>②</sup>両方の可能性を含めて4通りあるはずなのだが、実際にはほとんど迷う人はいない。日本語の場合も同様である。今度も図2をできるだけ短い時間で見ていただきたい。

問題なく、「<sup>③</sup>？」と読めたことだろう。「だわのゆびね？」という可能性は脳ですぐに捨てられてしまう。図3ではどうだろうか。

図1

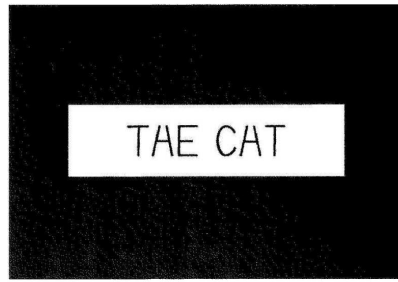
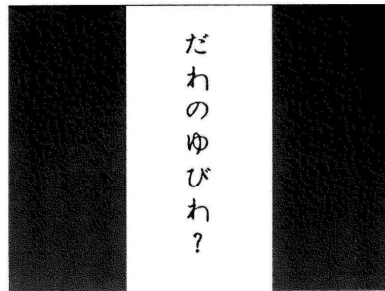
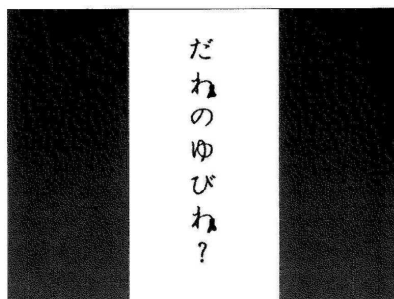


図2



(波多野隆余夫 [NHK市民大学 知力をさぐる] 日本放送出版協会 [1988] p.62より)

図3



インクの染みによって、「れ」と「わ」が隠され曖昧にされているが、自然と解決することがわかる。以上の例のように、意味のある単語や文を予想しながら不完全な情報を補うという、「先読み」の能力が脳に備わっているのだ。

そうした脳の特徴をよく表している例として、私の体験を述べよう。最近友人が亡くなったのだが、葬儀から帰ってきた翌日、いつも通る道沿いのビルの屋上に、葬儀社の看板があることに初めて気づいた。その道は、今まで数え切れないほど通ったはずなのに、そこに葬儀社の看板があることに気づいていなかったのだ。

これは、今気にかかっている問題のリストを脳があらかじめ用意していて、それに該当する情報が入ってきたときには、瞬時にそれを意識に上らせているかのようである。脳は自動的にあらゆる情報を受容したうえで、その中から経験に基づき意味のある一部だけを先読みして汲み取るうとするのだろう。だから、道端の立て看板や電柱の広告などは、ふだん全く気にとめていなくとも、気になる状況になった時には意識に上ってくるのだと考えられる。

町なかの看板は、宣伝主には好都合だろうが、膨大な情報を自動的に処理しなければならぬ歩行者の脳には、余分な負担になるだろう。都市生活では、こうした過剰な看板が知らず知らずのうちにストレスを生み出している可能性がある。また、日本の交通機関は、欧米では考えられないほどの過剰なアナウンスに満ちあふれている。駅に停車するたびに、「お手回り品、お忘れ物にご注意ください」とか「前の方に続いて順序よくお降りください」という注意が乗車中の人にまで喚起される。くり返し同じ情報にさらされることに麻痺してしまつて、本当に必要な時には注意が向かないとしたら、安全管理上、逆効果となる恐れがある。

なお、先読みの能力そのものは、人間以外の動物にも備わっている可能性がある。草食動物は、草むらにひそむ捕食者を察知したら、先読みして逃げなくてはならない。狩りをする肉食動物もまた、相手の動きの予測のもとに自分の体を動かさなくてはならない。感覚だけを頼りにして追うような狩りしかできない動物は、飢えて滅んでしまったかもしれない。

人間の場合は、先読みの能力をうまく言語にも流用しているので、一つの言葉を眼や耳にただで、それに付随する意味や次に来るべき言葉を予測できる。それは、ほとんど本能のようなものだ。自覚していなくても、自分の経験に近いものや必要な情報を常に探そうとする習性があるのだ。だから、一般的に漢字で書く言葉をひらがなで書くのと違和感があるし読みにくい。

昔の理工系の専門書は、漢字とカタカナで書かれていた時代があった。今ひらがなで書かれる部分は、すべてカタカナになつてい  
た。逆に、今はカタカナで書くような外国人の人名などは、ひらがなで書かれていた。そこで、「にゅーとん」とか「らいふにつつ」と表記されているのを見ると、発音はまったく同じなのに、くすつと笑えてしまう。カタカナ書きとひらがな書きの違いだけで、脳の先読み感覚がくすぐられるようだ。

問一 ①「先読みする能力」とありますが、ここではどのような能力のことですか。本文中より「能力」につながる二十五字を探し、はじめと終わりの三字をぬき出しなさい。

問二 ②「両方の可能性を含めて4通りある」とありますが、ここでいう「4通り」として、最も適するものを選び、記号で答えなさい。

ア THE CAT ・ THE ACT ・ THE TCA ・ THE AAT  
イ THE CAT ・ HET CAT ・ ETH CAT ・ TAE CAT  
ウ THE CAT ・ TAE CAT ・ THE CHT ・ TAE CHT  
エ THE CAT ・ TAE COT ・ THE COT ・ THE CHT

問三 ③           にあてはまる言葉を、ひらがな六字で答えなさい。

問四 ④「初めて気づいた」とありますが、その脳のしくみを説明している一文を本文中より探し、はじめの五字をぬき出しなさい。

問五 ⑤「駅にくとという注意」とありますが、筆者はこれをどのようなものだと思っ  
ていますか。本文中より八字でぬき出しなさい。

問六 ⑥「逆効果」とありますが、ここでは具体的にどうなってしまうことですか。説明しなさい。

問七 ⑦「人間以外の動物」について。

I 「人間以外の動物」の例として挙げられているものを、本文中より二つぬき出しなさい。

II 「人間以外の動物」の説明として、最も適するものを選び、記号で答えなさい。

ア 人間は先読みする能力を文字にも流用できるが、人間以外の動物は狩りの能力や感覚だけを生かしている。

イ 人間は先読みする能力を言語にも流用するが、人間以外の動物は命を守るために、その能力を生かしている。

ウ 人間は先読みする能力を身の安全のために生かすが、人間以外の動物は周りの敵と戦うために生かしている。

エ 人間は先読みする能力を都市生活で生かすが、人間以外の動物は自然の中で生かすことができずにいる。

問八 ⑧「カタカナ書きとくすぐらられるようだ」とありますが、なぜ「くすぐられる」のですか。本文中より三十字で探し、解答らんに合うように、はじめと終わりの三字をぬき出しなさい。

問九 本文の内容と合うものとして、最も適するものを選び、記号で答えなさい。

ア 読者に身近な例を多く示すことで、人間が先読みをしすぎる危険性を呼びかけている。

イ 脳にストレスになろうとも、看板の文字情報がますます過剰になることを予想している。

ウ 動物と人間の先読みの能力を比べることで、動物が生きぬくことの難しさを伝えている。

エ 三つの図を並べ見ることで、英語・日本語関係なく先読みしてしまうことを体感できる。

二、次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。(本文には一部改めたところがあります)

〔本文は、主人公の恵が父親の海外転勤で、愛犬のリユウを手放すことになったときの話である〕

「私も一緒に保健所に行く。お願い」

ちゃんと最後までリユウを見送りたい。その一心で、遅刻ギリギリの時間までお母さんに頼んだけど、どれだけお願いしてもお母さんは聞き入れてくれない。

「学校があるでしょ。今日からテストなんだから、絶対にダメです」

① いつもは穏やかなお母さんの口調がやけに厳しい。どうしても無理ということがわかり、私は仕方なく断念した。

② ……。でも、貰い手が決まったら絶対連絡先を教えてもらえるようにしてね。日本に戻ってきたら会いに行くから。優しい人じゃないとダメってちゃんと言っておいてね。ちゃんとご飯あげて、毎日散歩して……」

「わかったから早く行きなさい。遅刻するわよ」

「あと、これ」

私は玄関に置いていたフリスビーを両手でつかみ、お母さんの前に突き出す。

「渡すように言っただけ。お気に入りのおもちゃだからって」

私がフリスビーを持ったから、遊んでもらえるのかと思ったリュウが嬉しそうに飛び跳ねる。ごめんね、もう、フリスビーどころか会うこともできなくなってしまっただよ。

私は制服に毛がつくことも気にしないで、ギョツとリュウを抱きしめる。

「リュウ、ごめんね。本当にごめん……。今までありがとうね。元気だね。新しい飼い主さんと仲良くするんだよ。帰ってきたら、絶対会いに行くからね。それまで、バイバイ」

私は泣くのを堪えながらリュウと離れる。私の言葉に返事をするように、「ワン」と、元気な声でリュウが鳴いた。ドアが閉まる瞬間に、お母さんが何か言う声が聞こえた気がした。

テストが始まる直前になっても、ずっとリュウのことが気になって仕方がなかった。胸が痛くて、苦しくて、それでいて、ぽっかりと穴が開いていて。体の一部をどこかに置いてきてしまったようなすっきりとしない感覚。改めて、リュウが自分の友達で、家族で、自分の一部だったことに気付く。でも、もう、どうしようもない……。

「どうしたの恵。徹夜？ 死にそうな顔してるけど」

よほど酷い顔をしていたのか、テスト用紙をまわす優香が心配そうに声をかけてくれた。

「リュウがね……。今日、保健所に行くんだ。今頃お母さんが連れて行ってる」

私の言葉に優香が大きく目を開いて驚き、そのあと、一気に⑤の顔になった。

「そっか貰い手見つからなかったんだ……。それは辛いね。リュウ殺されちゃうんだ……」

えっ!? 私は前のめりになり、優香の肩をつかむ。

「何言ってるの? 保健所って貰い手が見つかるまで預かってくれるところでしょ?」

私の驚いた声に、優香が逆に驚く。

「運よく貰い手が見つかる場合もあるらしいけど、大抵の場合は見つからなくて……殺されちゃうらしいよ」

「うそっ!!」

私が大声をあげて立ち上がると、みんなが一斉にこっちを見た。

「こら、そこ、何してるんだっ! 席に着きなさい!!」

みんながざわめく中、私は先生が止めるのも聞かず教室を飛び出した。

お母さんに電話をしても全然出ない。どうしよう、急がないとリュウが殺されてしまう。

家には誰もいなかった。もう、お母さんはリュウを連れて保健所に向かってしまっている。私は震える指で、パソコンを立ち上げ、インターネットで保健所を調べる。

『殺処分』という文字に心臓が止まる。何? これ、全然違う! 急いで一番近い保健所の場所をメモして家を飛び出す。

電車に乗っている間も、ずっと体の震えが止まらない。頭の中には、リュウとの楽しかった日々が、グルグルと駆け巡る。友達が  
いなくて寂しかった日々をいつも癒してくれたリュウ。可愛い可愛いリュウ。ああ、どうしよう、リュウが、リュウが!!

もしものことを考えると⑥で涙が止まらない。人目も気にせず私は泣き続ける。あまりのショックに具合が悪くなり、立っ  
ていることができず、その場にしゃがみこむ。

「大丈夫ですか……?」

周りの人が心配してくれるけれど、私のことなんてどうでもいい。今は、リュウが助かれば、それだけでいい。

保健所に着き、入り口で中から出てきた人とすれ違う。大の大人が、目を真っ赤にして泣いていた。やはり、ここに連れてくる人は死ぬのを覚悟で連れてきている。

私は受付の人が呼び止めるのも聞かずに中へ駆け込む。

リュウ、どこ？ 私は夢中で走る。視界には、牢屋の中に閉じ込められているような寂しそうな犬たち。胸が壊れそうになる。そのとき、リュウの鳴き声が聞こえた。

「リュウ！」

私は大声で叫んだ。お母さんが職員の人にリュウを渡そうとしているところだった。私を見つけると、リュウはもがいてお母さんの腕から飛び出し、私に駆け寄ってきた。私はリュウを両手でギュッと抱きしめる。怒りや悲しみに導かれるまま大声で怒鳴った。

「リュウは絶対に殺させたりしない。リュウは友達なの、家族なの。お母さん、自分の都合で私を殺せる？ 私にとってリュウをここへ置いていくという事は⑦。どうしてもここに置いていくって言うなら……」

⑧ お母さんの顔を見て、私は言葉を止めた。こんなに悲しそうなお母さんの顔、見たことがない。ずっと、泣いていたような、腫れた目……。お母さんは黙ったままその場にしゃがみこんだ。鞆からは、ピンクのフリスビーがはみ出していた。ちゃんと、渡してくれるつもりだったんだ……。⑨

「お引き取り下さい」

職員の落ちついた声で、私とお母さんはリュウを連れて歩き出す。保健所を出るときにお母さんがポツリと呟いた。

「恵が来てくれてよかった……」

私だけじゃない。お母さんも、辛かったんだ……。だから、あんなに必死に貰い手を探してくれていた。あんなに辛そうな顔で決心をした。私やリュウを見るたびに、本当に心苦しかったはず。お母さんだって、リュウのことが大好きだったんだから……。

私とお母さんは一緒にリュウのキャリーを握りしめ、リュウの重みを感じながら、家へ向かった。



その夜、お父さんとお母さんは遅くまでリビングで話し合っていた。私は、リュウが生きることがただ嬉しくて、昨日よりも体を寄せながら、また一緒に眠った。

翌朝、お父さんとお母さんがまた私をリビングに呼んだ。

「転勤は断ることができないけど、会社が用意するマンションを断ることにしたよ」

「ほんとっ!?　じゃあ、リュウを連れて行くことができるの?」

お母さんがいつもの穏やかな笑顔で微笑む。

「やったー!」

リュウも嬉しそうにキャンキャンと吠えている。

「その代わり、狭い家に住むことになるけど大丈夫か?」

「うん、いい。何でもいい。リュウと一緒にに行けるなら大丈夫!」

私はリュウを抱きしめて立ち上がり、リュウと一緒に頭を下げる。

「お父さん、お母さん、ありがとう」

ロサンゼルスは想像通りの素敵な所だった。でも、初めての海外、理解できない英語。私はなかなか生活になじめずに、またリュウとばかり遊ぶ毎日。

「いつも家にいたら、リュウがかわいそうよ。お外に連れて行ってあげなさい」

お母さんにそう言われて緊張しながらリュウを散歩に連れて行く。近所の広い公園では、同級生ぐらいの女の子たちが楽しそうにおしゃべりをしている。私はその光景を横目で見ながら、とぼとぼと歩き、木の陰に座る。

リュウを放してあげると、いつも狭い家にいる反動か、嬉しそうにはしゃぎ、一気にどこかへ走り去ってしまった。

私が出たくないからといって、一緒に部屋に閉じ込めてしまつて悪いことをした……。申し訳なく思っていると、芝生の奥から

リュウがすごいスピードで戻ってくる姿が見えた。その横には、リュウよりも何倍も大きな白のゴールデンレトリバー。

驚いている私の目の前で、リュウと白い子は舌を出しながらおりこうにお座りをしている。

どこから連れてきてしまったんだろう……。私が周りを見回すと、一人の女の子がやってきた。私よりも、少し年下に見える、金髪きんぱつのクセ毛とそばかすがとても可愛い女の子。

私が緊張して黙だまっていると、女の子は白い子とリュウをなでながら、笑顔で何かを話しかけてきた。私の手にあるフリスビーを貸してと言っているみたいだった。

私がフリスビーを渡すと、女の子は「センキュー」と言いながら投げ、リュウと白い子が走る。白い子がくわえて私の所にやってきて、女の子も笑顔で「カモン」というように手を振る。初めての、同年代の子とのコミュニケーション。

ありがとう、リュウ。<sup>⑨</sup>リュウのおかげでここでも友達ができそう。

私が笑顔でフリスビーを投げると、リュウは高く飛び、空中でキャッチした。

〔原案・太田鉄平、小説・村上桃子『リュウといっしょ』〕

(9)

問一 ① 「いつもは穏やかなお母さんの口調がやけに厳しい」とありますが、お母さんのどのような思いがあるからですか。最も適するものを選び、記号で答えなさい。

ア 恵の学校でテストがあるので遅刻させたくないから。

イ 恵のわがままを聞かされることにうんざりしたから。

ウ 恵が保健所に行くことを許してしまいそうだから。

エ 恵にリュウのことよりもテストに集中させたいから。

問二 ② にあてはまる言葉を、本文中よりひらがな四字でぬき出しなさい。

問三 ③ 「お母さんが何か言う声が聞こえた気がした」とありますが、お母さんが恵に伝えたい言葉としてあてはまらないものをつ選び、記号で答えなさい。

ア 今日のテスト、がんばってね。

イ 気をつけて行ってらっしゃい。

ウ 保健所に行ったらだめよ。

エ フリスビーは渡すからね。

問四 ④ 「リュウが自分の友達で、家族で、自分の一部だったことに気付く」とありますが、どうしてそのように思えるのですか。

解答らんにあてはまる語として適するものを選び、それぞれ記号で答えなさい。

問五 ⑤・⑥ にあてはまる語として適するものを選び、それぞれ記号で答えなさい。

ア 同情 イ 不満 ウ 非情 エ 不安

問六 ⑦ 「そういうこと」とありますが、どういうことですか。十字以内で説明しなさい。

問七 ⑧ 「お母さんの顔を見て、私は言葉を止めた」とありますが、恵はお母さんのどのような気持ちを察したのですか。本文中の語句を使って、解答らんにあてはまる語として、二十字以内で説明しなさい。

問八 ⑨ 「リュウのおかげ」とありますが、恵はリュウのどのような行動に対して「おかげ」と思っているのですか。本文中の語句を使って、解答らんにあてはまる語として、三十字以内で説明しなさい。

問九 本文の内容と合うものとして最も適するものを選び、記号で答えなさい。

ア 優香は恵を心配して保健所に行くようにと背中を押した。

イ お父さんは海外転勤にリュウを連れて行く方法を考えた。

ウ お父さんとお母さんは海外転勤を断る相談をしていた。

エ 恵は海外でもリュウが心配で散歩をさせていなかった。

三、次の問いに答えなさい。

問一 次の①～④の熟語の組み立ての説明として適するものを選び、それぞれ記号で答えなさい。

- ① 干満      ② 永久      ③ 就任      ④ 紅茶

- |   |  |        |
|---|--|--------|
| A | 同じような意味の字を組み合わせたもの。                      | (例) 良好 |
| B | 反対の意味の字を組み合わせたもの。                        | (例) 大小 |
| C | 上の字が下の字を修飾 <small>しゅうしよく</small> しているもの。 | (例) 緑色 |
| D | 下の字が上の字の目的語になっているもの。                     | (例) 登山 |

問二 次の①～④の□にあてはまる漢字一字を答えなさい。なお、それぞれ二つの□には同じ漢字が入ります。

- ① □人 □色      ② □信 □疑      ③ □朝 □夕      ④ □四 □人 □□

問三 次の①～④の漢字と同じ部首を持つ漢字を選び、それぞれ記号で答えなさい。

- |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ① | 郵 | ア | 陽 | イ | 乗 | ウ | 重 | エ | 部 |
| ② | 窓 | ア | 宙 | イ | 究 | ウ | 忠 | エ | 憲 |
| ③ | 肺 | ア | 脳 | イ | 朝 | ウ | 望 | エ | 服 |
| ④ | 姿 | ア | 冷 | イ | 次 | ウ | 委 | エ | 欲 |

問四 次の①～④の文の——線部の漢字をひらがなに直しなさい。

- ① 桜の開花宣言が出された。
- ② 日本を縦断する。
- ③ 磁石の実験をする。
- ④ 衣服が縮む。

問五 次の①～④の文の——線部のカタカナを漢字に直しなさい。必要ならば、送りがなをひらがなで書きなさい。

- ① ニンギョウゲキをみた。
- ② 富士山は世界イサンだ。
- ③ ピアノをエンソウする。
- ④ 税金をオサメル。